

# 建築用塗装下地とその素地調整方法

素材	素地調整方法の内容			
軽量気泡コンクリート(ACL)	1.ゴミ・レタンス・エフロレッセンス・砂じん・油脂分などの付着物をワイヤブラシ・サンドペーパーなど手工具で除去し、乾燥した清浄な面とします 2.十分に乾燥させpH10以下、含水率8%以下に管理して下さい 3.素地の不陸、欠損は、合成樹脂エマルジョン入りセメント系下地調整材(アレスフィラー)やアクリル樹脂系下地調整材(アレスエアレスフィラー)で充填して下さい			
打ち放しコンクリート モルタル プレキャストコンクリート(PC)	1.ゴミ・レタンス・エフロレッセンス・砂じん・油脂分などの付着物をワイヤブラシ・サンドペーパーなど手工具で除去し、乾燥した清浄な面とします 2.十分に乾燥させpH10以下、含水率8%以下に管理して下さい 3.下地面の鉄さび・セパレーター・木片・油脂など吹付仕上げに有害なものは取り除いて下さい また、鉄さびの膨張による欠陥が生じないように処理して下さい 4.下地のひびわれ、コンクリートの打継ぎなどで漏水の原因となるおそれのある個所は、あらかじめUカットのうえコーキング材でシールし、セメント系フィラーアレスエアレスフィラーでシール面を被膜するか、あるいは樹脂注入など有効な防水処理を行って下さい 5.コンクリート面の硬化不良、レタンスなどで著しく強度の小さい個所は皮すき・ワイヤブラシなどで取除き、また素地に巣穴・段差などがある場合には、合成樹脂エマルジョン入りセメントモルタルや合成樹脂エマルジョン入りセメント系下地調整材(アレスフィラー)で処理して下さい			
スレート板 押出し成形セメント板 ガラス繊維強化コンクリート(GRC)	1.ゴミ・レタンス・エフロレッセンス・砂じん・油脂分などの付着物をワイヤブラシ・サンドペーパーなど手工具で除去し、乾燥した清浄な面とします 2.十分に乾燥させpH10以下、含水率8%以下に管理して下さい 3.素地の不陸、欠損などはエポキシ樹脂系シーラー(浸透系シーラー)を塗付し、エポキシ樹脂系パテ(アレスエポパテ)で処理し、エポキシ樹脂系プライマー(マルチマイルコンクリートプライマーEPO)を塗布して下さい			
鉄(普通鋼)	素地調整程度		作業方法	関連規格(ISO)
	清浄度1種 (1種ケレン)	黒皮・さび・旧塗膜を十分に除去し、清浄な金属面とする	ブラスト法	Sa3 Sa2 1/2 Sa2
	清浄度2種 (2種ケレン)	さび・旧塗膜を除去し、鋼面を露出させる ただし、くぼみ部分や狭隙部分には、さびや旧塗膜が残存する	ディスクサンダー・ワイヤホイールなどの動力工具と手工具の併用	St3
	清浄度3種 (3種ケレン)	さび・劣化塗膜を除去し、鋼面を露出させる ただし、劣化していない塗膜(活膜)は残す	同上	St2
清浄度4種 (4種ケレン)	粉化物および付着物を落とし、活膜を残す	同上	—	
亜鉛めっき	1.溶剤脱脂処理や手工具・電動工具などによる白さび、付着物の除去を行ない清浄な面とします 2.エッチングプライマー1種(メタラクトH5)を塗布する方法もあります 3.化学的処理(リン酸亜鉛処理またはクロム酸処理)、特にクロム酸処理で剥がれを起こす場合があるので注意が必要です			
ステンレス	1.溶剤脱脂処理や手工具・電動工具などにより付着物の除去を行ない清浄な面とします			
アルミニウム	1.一般的に、溶剤脱脂処理、化学処理(クロメート処理など)、電解処理(アルマイト処理)などが行われます 2.アルマイトは陽極酸化被膜で、封孔処理をするものとしなないものがあり、種類によっては塗料の付着性が劣る場合があります			
木材	1.塗装木材は、水分が平衡状態に達したものでなければ問題を起こしやすく、塗装前に 下記の測定器を用いて含水率を測定しておく必要があります (A) 電気抵抗 (B) 高周波抵抗 (C) 誘電率 2.下処理としての水分のほかに、ヤニの処理を考えておく必要があります 軽いヤニの場合は、通常のセラックニス塗って押さえます ヤニのひどい材質の場合は、その部分を焼きゴテまたはトーチランプで焼くか、小刀で切り取ります			